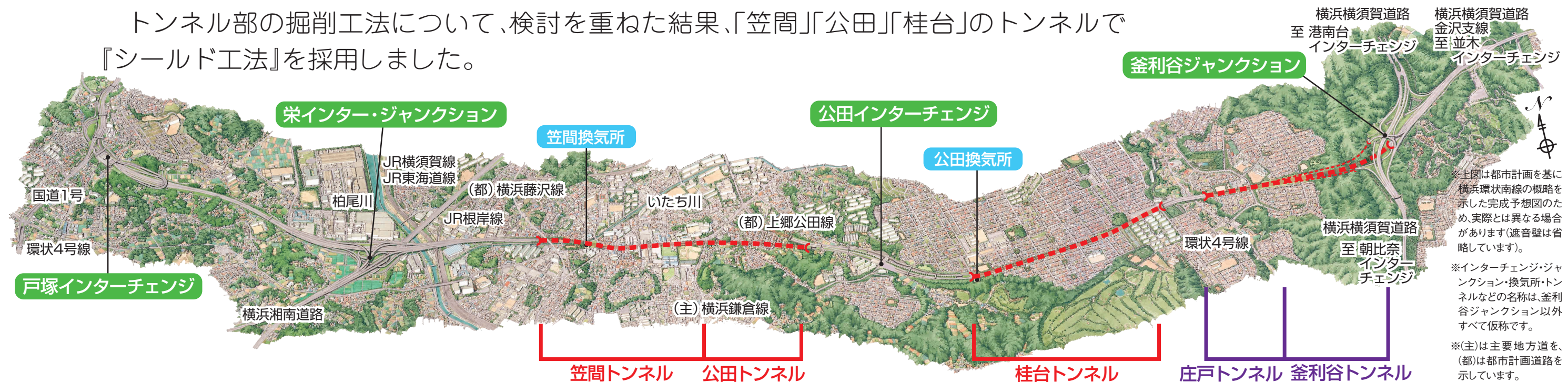


◎ 横浜環状南線 トンネル工法の見直し(シールド工法の採用)

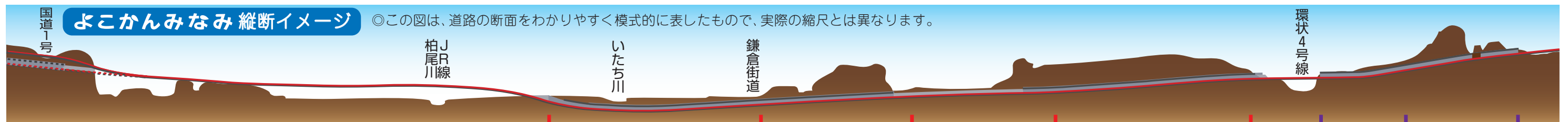
トンネル部の掘削工法について、検討を重ねた結果、「笠間」「公田」「桂台」のトンネルで『シールド工法』を採用しました。



※上図は都市計画を基に横浜環状南線の概略を示した完成予想図のため、実際とは異なる場合があります(遮音壁は省略しています)。

※インターチェンジ・ジャンクション・換気所・トンネルなどの名称は、釜利谷ジャンクション以外すべて仮称です。

※(主)は主要地方道を、(都)は都市計画道路を示しています。



◎この図は、道路の断面をわかりやすく模式的に表したもので、実際の縮尺とは異なります。

●当初の工法

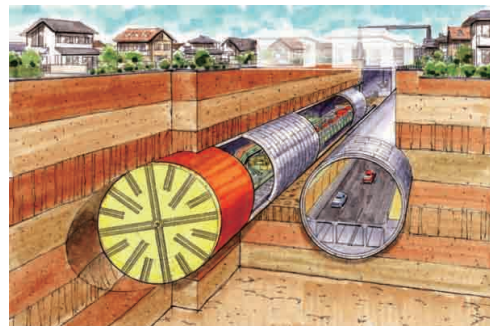


●変更後の工法

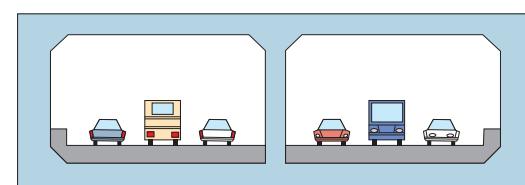


■シールド工法とは？

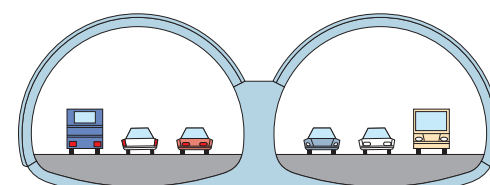
トンネルの断面に合わせて設計されたシールドマシンを使って地中を掘り進みます。施工技術の進歩により、工事中の周囲への影響をより小さくすることが可能になり、地下水対策も一般的には不要で、安全で信頼性の高い工法として期待されています。但し、基本的に同一断面での施工となることや、トンネル上部が浅いところでの施工は困難となります。道路トンネルでは、東京湾アクアラインや首都高速中央環状線などで採用されています。



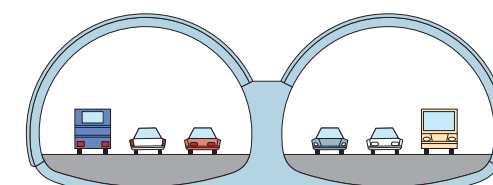
イメージ図(国土交通省資料)



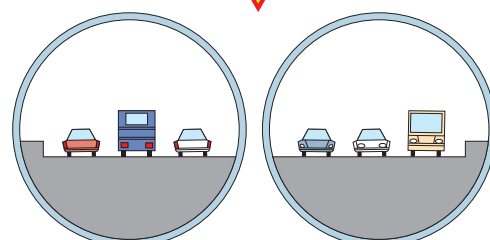
笠間トンネル 開削工法 断面図



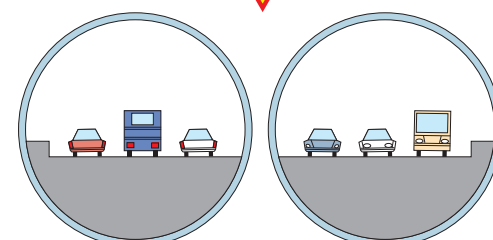
公田トンネル NATM 工法 断面図



桂台トンネル NATM 工法 断面図



シールド工法 断面図



シールド工法 断面図